

インターネットでふるさとを想う

私が福井中学校(いまの藤島高校)を
でて故郷を離れてからもう61年にな
る。福井のことですで頭に浮かぶのは
白山の連峰だ。だがどちらを向いても
山、それにあの陰鬱な北国日和。とき
どき、もつとひろびろした、空の明る
い土地をあこがれた。

私の父は仏壇屋の長男であつたのに英
文学を志して東京に飛び出し、私もそ
こで生まれた。しかし関東大震災にあ
い、一家は故郷に帰ることになってし
まった。私の学齢までは勝見の白髭神
社の横に仮住まいをした。最近久しぶ
りに帰郷したとき、私は妻とその頃ま
だ生まれていなかった妹をさそつて7
0年ぶりにそこに足を向けてみた。神
社は再建され、もう巨大な樺の神木
はなく、付近の町並みも見当がつか
ないが、すぐそばの足羽川の堤防にあ
がつてみると、まるで夢のようなパ
ノラマが開けた。子供の頃の思い出に
は月見草が咲き乱れた川原、対岸の刑
務所の煙突、ずっと左手の板垣橋など
があつたが、いま再び昔そのままの風
景を見たような気がした。

これも二、三年前のことだ。シカゴ美
術館で日本の現代建築家の展示を見
た。1つの写真の前になると、コップみ
たいなガラス張りの建築の背後に低い
峰が二つ、やさしいシルエツトがみえる。
あつ文殊山!と私は声をあげた。そ
ばの係員が訝しげな顔をしたので自
分の出身地であることを自慢げに説
明してやった。あれはたしか花堂あた
りの美術館だったが、いまインターネ
ツトでチェックしてはと気がついて探
してみると、あるはあるは、福井の紹介
がいっぱいできている。まず福井ビエンナ
ーレというしゃれた名前におどろかさ
れる。勝山にできるという恐竜博物館

の建物もモダンだ。私の少年時代と比
べてなんと変わったものだろう。あ
んな山奥まで行ったことはなかったが、
中学生時代には毎年夏になると、水
泳訓練のため九頭竜川上流の小船渡
に通つた。最初の日で全身が真っ赤
になって、シャツも着ていられないほ
ど体が痛くなったものだ。

福井ハープ・フェスティバルという英文
の紹介が目にとまる。なんと福井は日
本で唯一のハープ製造地方らしい。雨
田光平氏の名前がでてくる。雨田さん
は父の友人だったので、ハープと絵と
彫刻でうずまつた彼のアトリエにも連
れて行つてもらつた。「雨田氏の手はム
カデのごとく」と父はなにかに書いて
いた。後に雨田さんと私が名譽市民の
称号をいただいたとき、再びお会いす
ることができたことも思い出した。

歴氏人物のリストから日下部太郎・
グリフィスの項を開いてみる。少年時
代には、グリフィスの住んでいたとい
う館がお堀の近くにあつたが、日下部
やニューブランズウィック市にあるラト
ガース大学との関係はアメリカに来てか
ら知つた。ニューブランズウィックとい
えば、私が一時いたプリンスストンの近
くの大馬町で、ニューヨークに車で出
かける途中にいつも通る所だつた。福
井市会議員の一行がこの姉妹都市を
訪れたとき、私のシカゴ大学にも観光
バスを借り切つてわざわざ立ち寄つて
下さつたのには大変感激し、皆さんを
ぞろぞろ連れてキャンパスを案内し
た。

私の通つた小学校は?と探すとちゃん
と「進明中学校」として写真まである。
もとの「進放小学校」だという説明も。
私の家はそのすぐ裏、まだあたりは一
面の田んぼだつた。けれどもときどき
朝礼に遅刻し、垣根を越えて教室にこ
つそり先回りした。

インターネットは私などには実に便利なものだ。ほかの県も覗いて比較してみると、福井ほど郷土に関心をもち、インターネットで渉外活動に熱心なのは少ないようだ。とくに外国向けに。これも伝統なのかなと考える。

現在の福井は全国で最も住みよいところだ聞いていたが、実際統計を見ても私の印象でもうなずける。あの大胆に広い街路網、閑散とした人通りはこのごろの大都会では想像もできない。住んでいる人はすっかり変わっても、なんとなく心がくつろぐ。でも半世紀まえはその反対だった。アメリカから東京に着くと、まず私は頭を入れ替えねばならなかったが、東京から福井に来るときはもう一度の入れ替を必要とした。遡って私の高校時代には「軍事教練日本一」というモットーが福井の象徴だと思っていた。ところが明治の初め頃、日本の科学者の10パーセントは福井出身だったということをこちらの本で読んでびっくりしたことがある。フェニックスという名は福井のいろいろな面を現しているのではないだろうか。

南部陽一郎